

高等学校第3学年 地理歴史科(日本史B)学習指導案

期 日 平成24年10月31日(水)

授業者 教育センター所員 池田 尚史

1 単元名 大戦景気と経済の仕組み

2 単元設定の理由

平成21年3月に告示された高等学校学習指導要領地理歴史編では、歴史を総合的に考察し、表現する学習を重視するとともに、内容においては特に近現代史の学習が一層重視されるようになった。しかしながら、近代史の分野は生徒が苦手と感じやすい内容であり、他の分野と関連させながら総合的に理解することができていない場合も見受けられる。

対象となる生徒は現代史までの授業を一通り終えており、既習の学習内容を振り返りながら知識の総合化を図る学習段階にある。

そこで本単元では、近代史のなかで生徒が苦手と感じやすい経済の分野について、現代の社会に対する関心をもたせることで生徒の意欲を引き出し、他の分野と関連付けながら歴史を総合的に理解させ、更に資本主義経済一般の概念的知識を習得・活用させるための課題探究型の学習を設定する。

本単元で扱う第一次世界大戦に伴う特需に基づく大戦景気は、国家財政の破綻の危機に瀕した日露戦争後の日本にとってまたとない「天佑(天の助け)」であり、同時代の政治・外交・社会に大きな影響を及ぼした。この時期は、国内における貧富差が拡大するとともに、工業化する都市と消費財・労働力の供給源としての農村という関係をより強固なものにした。これらの経済的事象は現代の日本・世界にも通じるものがあり、現代的関心をもたせながら歴史事象を学ぶことを通じて、近代の資本主義経済の在り方という社会的事象を考察する力を身に付けさせたい。

3 単元の目標

大戦景気の影響・特徴・影響について、同時代の政治・外交・社会と関連付けながら多角的・多面的に考察させる。また大戦景気の学習から経済一般の事象を考察させ、歴史事象の理解を深めさせる。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・近代産業の発展について現代的視点から関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	・近代産業の発展が及ぼした影響から課題を見だし、政治・外交・社会と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 ・歴史事象から経済一般の概念的知識を抽出し、その知識を活用して他の歴史事象を考察することができる。	・近代産業の発展に関する諸資料から有用な情報を適切に選択し、資料の意図を読み取ったり、地図上に描画したりしている。	・近代産業の発展に関する基本的な事柄を、国内政治・国際社会や地理的条件などと関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。

5 単元の指導計画（全2時間）

- (1) 明治期から大戦景気までの日本の経済状況・・・1時間
- (2) 大戦景気から読み取る経済事象・・・・・・・・・・1時間（本時）

6 本時の目標（2/2）

- (1) 大戦景気の影響について、政治・外交など他分野の事象と関連付けながら理解させる。
- (2) 大戦景気という歴史事象を学ぶことを通じて、格差の拡大や労働力の移動といった経済一般の事象について考察させる。

7 本時の評価規準

◎資料活用の技能

- ・大戦景気に関する資料から有用な情報を読み取り、それを作図したりまとめたりしている。

◎思考・判断・表現

- ・大戦景気が国内外の動向に与えた影響について多面的・多角的に考察し、それを通じて大戦景気の経済一般の概念的知識を抽出し、その知識を活用して他の歴史事象を考察できている。

8 本時の展開

	学習内容・活動	指導上の留意点	評価及び支援の手立て
導入 (5分)	1 本時のテーマを確認する。 2 前時の復習・確認 (1) 明治期の経済について確認する。 (2) 大戦により日本製品に対する需要の高まりが貿易額の急増につながり、大戦景気はじまったことを確認する。	○ 大戦景気について学び、得られた経済事象についての概念的知識を高度経済成長と比較することを伝える。 ○ 産業の中心は繊維産業であったことや日露戦争後、国際収支は危機的状況にあったこと等を意識させる。 ○ 国際関係における日本の立場を意識させながら確認する。	
展開 (30分)	1 大戦景気と政治・外交 (1) 輸出が急増し、輸出超過に転じたこと、債務国から債権国に転身したことを確認する。	○ 資料①「輸出入額の変化のグラフ（PPTスライド2）」を活用する。	

	学習内容・活動	指導上の留意点	評価及び支援の手立て
展開 (30分)	<p>(2) 好景気と政治・外交の動向を関連付けて総合的に理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 寺内内閣 西原借款とシベリア出兵 ・ 原内閣 積極財政 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 政策が実行可能だったのは、好景気による税収増加も背景にあった点に着目させる。 ○ 日本史の学習において様々な分野と関連付けながら総合的に学習する意義を確認する 	
	<p>2 工業の発展と都市労働者の急増</p> <p>(1) 重工業・化学工業の発展の特徴と工業生産額が急増したことを確認する。</p> <p>(2) 工業の立地の在り方と新たに必要となった労働力を農村からの人口移動で確保したことを考察させる。タブレット型端末上の資料③「1913年から1918年にかけての人口増加率の地図 (Word 文書)」に特徴的な地域を電子ペンで囲わせ、その理由についての仮説を立て、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料②「産業別生産額のグラフ (PTT スライド3)」で、工業生産額・比率が急増し、日本が工業国に転じたことを気付かせる。 ○ 「重工業は関東～近畿～北部九州にかけて発展したこと」に着目させる。 SKYMENU を活用して考察を表示・発表させる。発表の後、資料③「1913年から1918年にかけての人口増加率の地図 (PPT スライド5)」及び資料④「主な製鉄所・造船所の立地 (PPT スライド6)」を活用しながら解説する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 工業の発展に関して <ul style="list-style-type: none"> ① 資料で気付いた人口移動に関する特徴を地図上に描画できる。 ② 資料から立地を踏まえて、重工業の発展が著しい地域を推測することができる。 ▲着眼点を伝える。 【資料活用の技能】 (観察・ワークシート)
	<p>3 賃金・物価の上昇とその影響</p> <p>(1) 好景気により企業の収益・労働者の所得ともに増加したが、物価の上昇から実質賃金指数が低下し、好景気にも関わらず賃上げを要求するストライキが増加するなど民衆が窮乏し、貧富差が拡大したことを考察する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料⑤「成金」、資料⑥「実質賃金指数低下のグラフ (PPT スライド4)」、資料⑦「ストライキの増加」を活用する。資料提示の際に「成金・賃金上昇」と「ストライキの増加」を先に取り上げることで、好景気との矛盾について意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 賃金上昇とその影響について <ul style="list-style-type: none"> ① 実質賃金指数の低下 ② 企業はより安価な労働力を求める 以上2点について考察できている。 ▲資料の着眼点や前時の内容を伝えるなど考察につなげさせる。 【思考・判断・表現】 (観察・ワークシート)

	学習内容・活動	指導上の留意点	評価及び支援の手立て
展開 (30分)	<p>(2) 賃金の上昇に対して、特に紡績業において安価な賃金を求めて中国に進出した(在華紡が設立された)ことを考察する。また在華紡の進出がその後の外交に与えた影響について、過去の事例と昨今の事例を比較する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 綿糸の主な輸出先が中国だったことを想起させ、消費地で現地生産することの利点にも着目させる。 ○ 在華紡の説明の際、資料⑧「在華紡の拡大と日中の摩擦(PPTスライド7)」を活用する。説明する歴史事象が大戦景気後のもの(ILO加盟や5・30事件など)については、その大戦景気中のことではないことを留意しながら説明する。 ○ 資料⑨「5・30事件の写真」と資料⑩「佐賀新聞10月10日付けの反日デモの記事」を活用する。 	
まとめ (15分)	<p>本時の歴史事象の学習を通じて習得した経済一般の事象をまとめる。</p> <p>「都市への労働力の移動」「安価な労働力を求めての企業の海外進出」 「インフレにおける企業収益・労働者賃金の増加」 「好景気による税収増加」 など</p> <p>更に抽出した経済一般の事象が、他の歴史事象にも当てはまる場合があることを確認する。「高度経済成長」を例に挙げ、類似点・相違点を考察させる。</p> <p>また高度経済成長以外の歴史事象との比較についても探究する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「労働力の確保に関すること」「富・財など税収・収益・所得などお金の流れに関すること」の2つの視点から考えるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 労働力の確保・お金の流れに関して ①各々1つ以上抽出することができる。 ②「高度経済成長」との類似点・相違点を考察できる。 ▲①について読み取ることのできる具体的な歴史事象を伝える。 【思考・判断・表現】 (観察・ワークシート)

A:「十分満足できる」・・・①・②の両方を充足できている。

B:「おおむね満足できる」・・・①のみ充足できている。

C:「努力を要する」・・・①・②のいずれも充足できていない。

▲・・・Cの場合の支援のための手立て。

9 使用教科書

- ・山川出版社『改訂版 詳説日本史』

10 使用教材

- ・浜島書店『新詳日本史』
- ・第一学習社『詳録新日本史史料集成』

11 使用する ICT 機器・ソフトウェア

- ・電子黒板
- ・学習者用端末
- ・PowerPoint「大戦景気」
- ・Word「1913年から1918年にかけての人口増加率の地図」
- ・SKYMENU

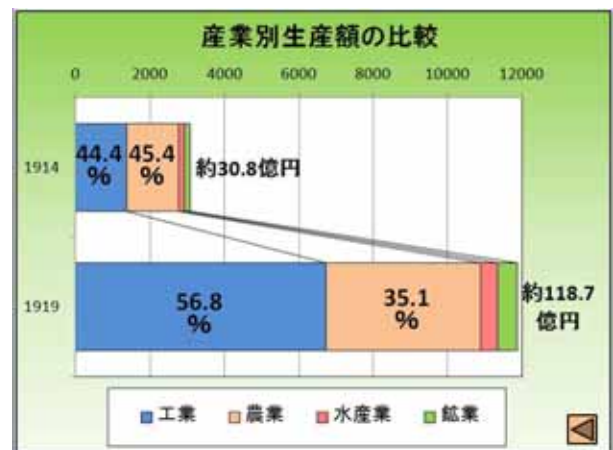
12 参考文献

- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』平成21年12月
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 地理歴史）～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～』平成24年3月
- ・全国社会科教育学会編著『中学校・高校の“優れた社会科授業”の条件』明治図書出版株式会社
- ・石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史 2 産業革命期』『日本経済史 3 両大戦間期』東京大学出版会
- ・杉山伸也著『日本経済史 近世～近代』岩波書店
- ・信夫清三郎著『大正政治史』勁草書房
- ・岡崎次郎・揖西光速・倉持博 編著『日本資本主義発達史年表』河出書房
- ・『日本貿易精覧』東洋経済新報社
- ・佐賀新聞10月10日付記事

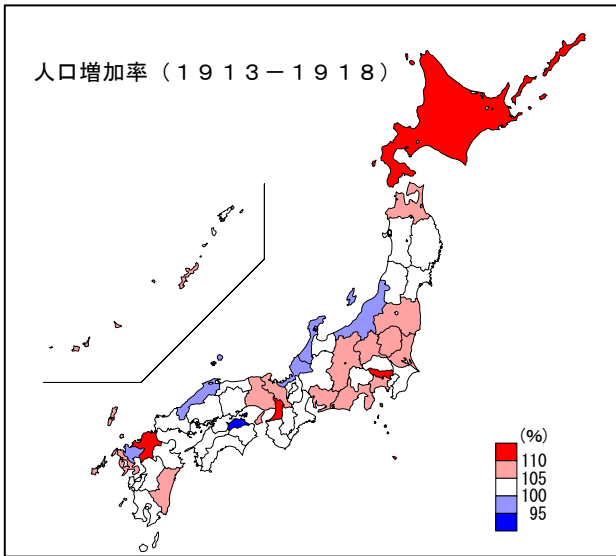
資料①「輸出入額の変化のグラフ」



資料②「産業別生産額のグラフ」



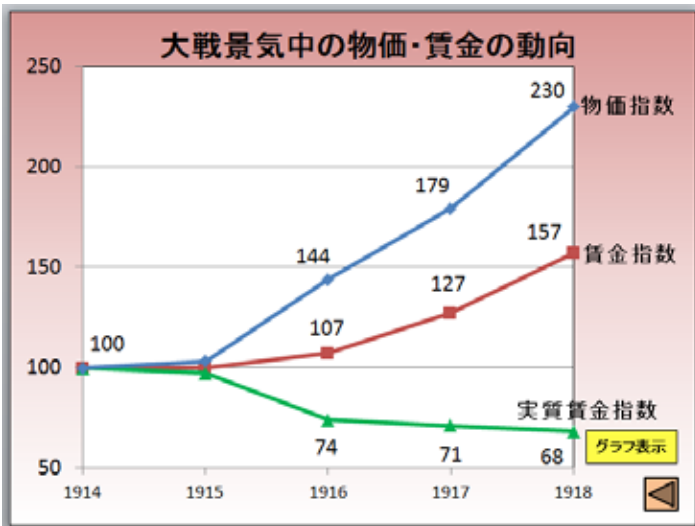
資料③「1913年から1918年にかけての人口増加率の地図」



資料④「主な製鉄所・造船所の立地」



資料⑥「実質賃金指数低下のグラフ」
※信夫清三郎著『大正政治史』より作成

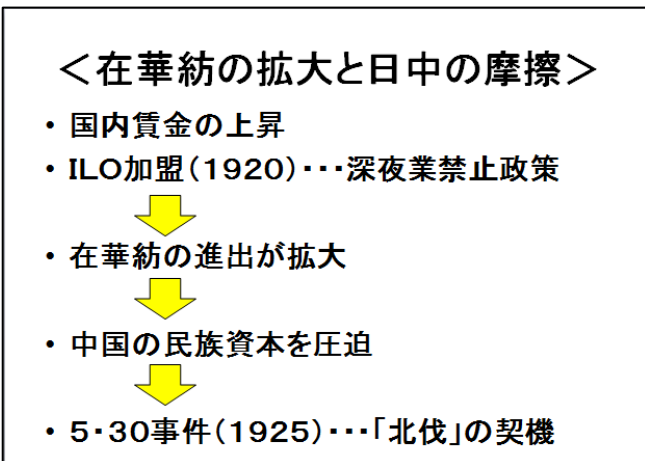


資料⑦「ストライキの増加」
※信夫清三郎著『大正政治史』より作成

「ストライキの増加」

元号	西暦	件数	人員	1件平均人員	延べ日数
T3	1914	50	7,904	158.08	34801
T4	1915	64	7,852	122.69	31449
T5	1916	108	8,413	77.90	28872
T6	1917	398	57,309	143.99	185079
T7	1918	417	66,457	159.37	203737

資料⑧「在華紡の拡大と日中の摩擦」



※資料⑤・⑨・⑩については、著作権上の観点から掲載を割愛します。